

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成18年12月

(平成18年11月末調査)

平成18年12月15日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【10月】	諏訪公共職業安定所管内	1.19 倍	0.05 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.60 倍	0.28 ポイント
手形交換高【11月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	11,949 枚	10.2 %
	金 額	14,141 百万円	677 百万円
うち不渡り発生状況	枚 数	2 枚	5 枚
	金 額	410 千円	8,479 千円
車庫証明取扱件数【11月】 (諏訪・岡谷家用自動車協会管内)		1,077 件	16.1 %
新設住宅着工件数(18年4月~10月) (諏訪地方事務所管内)		1,276 戸	124 戸

地域の概況

製造業

輸送用機械、産業機械等の受注は堅調で高水準の操業を続けている企業が見られる。製造業全体では、9月から10月をピークに受注が幾分弱含みとなったところも多く、年末商戦向け商品に係わる金属製品加工や精密機器加工の下請企業では、受注が一段落し一服感となった企業が見られる。

アルミなどの素材価格は依然として強含みとなっており、輸送費や副資材などのコスト高から収益確保に苦慮する企業が多く、「いざなぎ景気」を超えたといわれる景気回復感は、地域企業の経営者には実感としては弱いものがある。

地域製造業は、収益性の課題や受注動向の先行きに不透明感を抱えながらも、底堅い動きとなっている。

商業

11月の天候は、上旬は晴れた日が多く下旬は曇りや雨の日が多かったが、平均気温は平年より高く本格的な冷え込みとはならなかった。

衣料品は、平均気温が高かったことからコートなどの防寒衣料の動きが総じて低調であった。

食料品は、りんごやみかんなど果物の売れ行きが好調であった。また、売り場改善やメニュー提案等により売上高が前年より増加したところもみられるが、生鮮三品は野菜の安値や大型店の価格競争から総体では売上高は前年を割り込んだ模様。

大型家電店は、引き続き大型薄型TVは好調な売れ行きをみせたが、新OSの発売を控えパソコン関連の動きが鈍かった。

ホームセンターは、園芸資材や漬物材料等の季節商品の動きが良かった。

観光

平成 18 年 7 月豪雨災害の影響も薄れ、また天候にも恵まれたことから各観光地とも入り込み客は増加した。宿泊客数は各ホテル旅館によりまちまちであるが、総体では増加した模様。一方、宿泊単価の低下により売上高は横這いとなっている。

上諏訪の旅館・ホテルは、平成 18 年 7 月豪雨災害の影響も薄れ、愛知万博の影響が残った昨年 に比べ 10%～30%程度、宿泊客が増加したところが多かった。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は、新企画などにより団体客が増加し前年を上回ったところもみられ、総体でも前年を上回った模様。観光施設利用者も、天候に恵まれ昨年比では増加している。

下諏訪温泉は、宿泊客数・日帰り客ともに増加したところが多くみられる。

諏訪大社の参拝者数は 69 千人で前年に比べ 11 千人増加している。

建設業

市町村の 11 月の発注工事は 601 百万円で前年同月比 48 百万円減少した。県発注工事（地元業者受注分）は 931 百万円で、4 月～11 月の累計契約額は 3,514 百万円と前年 11 月累計比 1,305 百万円増加している。

県・市町村合わせた 11 月の公共工事の地元企業受注額は 1,532 百万円で、前年同月比 597 百万円増加した。

民間工事は 10 月の新設住宅着工件数が 118 戸で、前年同月比 75 戸減少した。18 年 4 月～10 月の累計着工戸数は 1,276 戸で、前年同期の累計着工戸数に比べ 124 戸減少している。

建築工事は、工場建設や個人住宅及びリフォームなどで受注量を確保したところもみられる。

土木工事は、災害復興工事が始まり、市町村の小規模工事の発注件数は大幅に増加した。

雇用

10 月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所 1.19 倍・岡谷公共職業安定所 1.60 倍で、諏訪地域の有効求人倍率は 1.35 倍と長野県全体の 1.21 倍を上回っている。

諏訪公共職業安定所と岡谷公共職業安定所を合わせた 10 月の新規求人（全数）は 1,402 人で、前月より 305 人減少した。

諏訪地域の有効求人倍率は、平成 15 年 10 月以降 37 ヶ月連続して 1 倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

業種別動向

1. 電気機器

プリント基板	受注状況は企業により増加減少まちまちとなっているが、総体では弱含みとなっている。
コンデンサー	自動車用コンデンサの受注は増加しており、エアコン用コンデンサの受注も増加に転じている。
プリンター	下請企業の受注状況はまちまちであるが、大型プリンターは堅調に推移している。
コンダクター・リレー	受注は安定しており堅調な生産が続いている。

2. 輸送用機械

自動車	国内メーカーは安定した生産を続けており、下請企業の受注も総体では高水準となっているが、コストダウン要請が多くなっている。
ピストンリング・シリンダーライナー	海外の生産が増加しており、下請企業の受注は幾分弱含みとなっている。
船外機	下請企業の受注は旺盛である。

3. 一般機械

工作機械	自動車部品の加工機械は引続き堅調な生産を続けているが、先行きは慎重な見方をしているところが多い。
専用機・省力機器	専用機械、省力化機械など産業機械は高水準の生産を続けている。
搬送用機械	食品関連企業やデジタル家電企業などの受注は堅調で、今後も高水準の生産が見込まれる。
金型	携帯電話関連や音響部品関連が幾分弱含みとなっているが、医療機器等の受注は堅調である。
アルミダイキャスト	自動車部品は増産傾向で高水準の生産を続けているが、音響関係は一部で弱含みとなっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルカメラの10月の生産台数は884万台で、前月比1.9%、前年同月比19.1%の増加となっている。(カメラ映像機器工業会) 10月までの総出荷は、前年同期比24.1%の増加となっている。なかでもレンズ交換式一眼レフタイプの伸びが大きく、国内出荷は前年同月比71.1%の増加、輸出も前年同月比55.8%の増加となっている。 レンズ一体型は海外生産が主流となっており、地域の下請企業の受注状況はまちまちとなっている。レンズ交換式一眼レフの10月の生産台数は61万台で、前年同月比63.1%の増加となっている。交換レンズの金属加工の受注は幾分弱含みのところもみられる。
---------	---

プロジェクター メーカー各社の海外生産比率の高まりや国内需要の減少を受け、下請企業の受注は前年同期比では大幅に減少している。

レンズ 国内のガラスレンズの生産量は減少しており総体では減少傾向であるが、下請企業の中には幾分受注が増加した企業もみられる。

5. 繊維

ニット 11月の平均気温は全国的に高く、専門店ではコート類などの販売は低調でありニットへの影響が心配されたが、春物サンプルの依頼は活発になってきている。

6. 食品

寒天 ブームの一服感があり、受注・出荷ともに昨年に比べ落ち着いた動きとなっている。

味噌 需要期を迎え前年並みの出荷状況となっている。

7. 製材

諏訪地域の10月の木造住宅着工件数は84戸で前年同月比14戸減少した。国内需要は低調であるが、輸入材の減少から建材(コンパネ、ベニヤ他)は前年比4割程度値上がりしている。

8. 建設

公共工事 11月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では諏訪建設事務所15件、林道治山工事関係9件、土地改良工事7件など合わせて34件、契約金額931百万円となっている。18年4月～11月の累計契約額は3,514百万円で前年11月累計比1,305百万円増加した。

民間工事 市町村発注工事は、建築工事8件10百万円、土木工事・下水道工事など131件518百万円、その他工事19件72百万円で合計158件601百万円と前年11月に比べ件数は50件増加したが金額は48百万円減少した。

諏訪地域の10月の新設住宅着工件数は118戸で、前年同月比75戸減少した。建築工事は、工場の新設や増築案件が幾分動き出しているほか、土木工事も幾分増加している。

9. 商業

諏訪地方の11月の天候は、上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多く、下旬は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。平均気温が平年より高かったことから、冬物衣料品の動きが鈍かったが、ブーツなどの流行品や漬物材料などの季節商品は順調な動きを見せた。

衣料 平均気温が平年より高く、コートや防寒着等の冬物衣料品の動きは鈍かったが、ジョッキーブーツなどの女性用ブーツの売れ行きは好調であった。

食料品 野菜の安値やチラシによる価格競争により生鮮三品の売上に大きな増

	加はなかったが、メニュー提案による鍋用食材やおでん材料により売上を伸ばしたところがみられる。
	りんごやみかん等の果物類の販売は好調であった。
電 気 機 器	薄型大型TVが引き続き好調のほか、新型洗濯機等の家電製品にも動きが見られるが、新OSの発売を控えパソコン関連は低調である。
自 動 車	諏訪・岡谷を合わせた11月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,077台で前月比268台減少し、前年同月比では16.1%と2ヶ月振りにマイナスに転じた。軽自動車の販売は総体的に好調であり、11月の新車の販売台数は438台となった。普通自動車はメーカーにより増加・減少がまちまちとなっている。
ホームセンター	園芸資材や季節商品(漬物材料等)の動きが良く、暖房器具も順調に売れ始めている。
デパート	平均気温が平年より高いため冬物衣料品の動きが弱い、商品構成の見直し等により食料品の売上は好調である。

10. 観 光

平成18年7月豪雨災害の影響も薄れ、各観光地とも入り込み客が増加した。宿泊者数は、愛知万博の影響が残った昨年に比べ10%~30%以上の増加を図れたホテル旅館もみられたが、宿泊単価の低下により売上高は横這いの状況である。

忘新年会の予約状況は堅調であり、各施設とも独自のプランにて営業を強化している。
飲酒運転自粛の徹底から飲食店の客足が減少した。

上 諏 訪 温 泉	多くのホテル旅館の宿泊客数は増加し、総体では対前年同月比20%程度増加した模様。ただし、宿泊単価の下落にともない売上高ベースでは10%増加~10%減少とまちまちであり、平均では横這いの状況。 忘新年会の宿泊パックプランを売り出しているホテル旅館も多く、12月の週末は予約にて満館のところもみられる。
蓼科・白樺湖・車山	天候に恵まれ対前年比売上高は増加したところも多くみられが、一方で減少したところもあり、総体では前年を幾分上回った模様。
下 諏 訪 温 泉	宿泊客数、日帰り(宴会)客数ともに増加したところが多くみられる。 忘新年会の予約状況も堅調である。
諏 訪 大 社	参拝客は69千人で前年より11千人増加している。団体での観光ツアーによる参拝が増加しているが、なかでも中京方面からの団体が目立っている。

最近の長野県経済の動向

(2006年12月15日) 日本銀行松本支店

2006年10月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心とした月例調査に加え、第131回全国企業短期経済観測調査(長野県分<別途公表>)の結果も併せて取りまとめ。

長野県経済は、着実に回復している。

足もとの最終需要の動向をみると、輸出は、06年度上期実績・下期計画ともに前年を上回るなど増加基調をたどっているほか、設備投資は、06年度上期実績が前年を上回った後、下期はさらに伸びを高める計画となっているなど、引き続き増加している。また、個人消費は、衣料品や身の回り品、乗用車販売が弱めの動きとなっているが、食料品や家電製品を中心に、総じてみれば底堅い動きが続いている。一方、住宅投資は、このところ増勢が一服しており、公共投資は、引き続き前年を下回った。

以上のような最終需要のもとで、生産は、IT関連財および自動車向けが高水準の生産を継続しているほか、産業機械向けが底堅く推移している。また、企業収益は、製造業を中心に06年度計画は前年比増益が見込まれている。この間、雇用面をみると、企業活動の活発化を映じて、有効求人倍率が引き続き上昇したほか、常用雇用者数も前年比増加が続くなど、改善基調が続いている。一方、所得面は、一人あたりの名目賃金の増加等から、雇用者所得が引き続き前年を上回るなど、着実に改善している。

個別業界の動向

(生産)

半導体関連では、半導体素子は、デジタル家電や自動車関連、ゲーム機向けなどが好調に推移していることから、生産水準を引き上げた。また、シリコンウエハは、デジタル家電向けを中心に高水準の生産を続けている。この間、リードフレームは、代替品への移行から低調な生産となっている。

電子部品では、コンデンサおよび抵抗器が、デジタル家電や自動車関連、携帯電話向けを中心に、高水準の生産を維持している。また、モーターは、ゲーム機向けなどの需要増から堅調な生産となっている。

情報機器では、デジタルカメラは、普及初期分の買い替え需要や輸出の増加から、また、県内生産分のパソコン(ノートブック型)は、堅調な海外需要を映じて、それぞれ高水準の生産が続いている。この間、プリンターは、複合機タイプを中心とした販売増加から生産水準を引き上げた。

時計では、完成品が、海外生産シフトの影響から、また、ムーブメントは、価格競争の激化を受けて、基調としては低調な生産を続けている。

自動車部品は、国内向けが小型車の販売台数減少を受けてやや鈍化しているものの、海外向けが、モデルチェンジ車種やディーゼル車の需要増から好調に推移しており、全体として高水準の生産が続いている。

工作機械は、国内の自動車向けが低調である一方、海外の自動車向けや国内外の情報関連機器向けが堅調を継続しており、生産は引き続き横ばい圏内で推移している。

計器は、国内の産業機械向けが横ばい圏内での動きとなる中、国内外の自動車向けが減少傾向をたどっている一方で、ガスメーター向けが引き続き増加しており、全体として底堅い生産となっている。

バルブは、ウェイトの高い国内外の産業機械向けおよび国内の住宅向けが堅調に推移していることから、高水準の生産を続けている。

味噌の出荷は、横ばい圏内で推移している。

飲料は、コーヒー飲料の受注が秋冬商戦向け新製品の投入減少を映じて伸び悩んでいるものの、茶飲料、野菜飲料の需要が引き続き好調なことから、総じてみれば堅調な生産が続いている。

(個人消費)

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、衣料品は、10月下旬の気温高止まりによって、冬物商品の立ち上がりが不調であったことから、再び前年を下回ったほか、身の回り品もブランド・テナント出店効果等の一巡により9か月振りの前年割れとなった。もっとも、ウェイトの高い食料品が、一部店舗の改装・新規出店効果等から引き続き前年比増加しており、全体では7か月連続で前年を上回った。

家電販売は、パソコンが新OSの発売を控えて引き続き減少しているものの、デジタル家電や高品質の白物家電等が好調を継続していることから、全体では堅調な販売が続いている。

自動車販売をみると、11月の新車登録台数は、軽四輪および普通車が新型車投入効果等により引き続き前年を上回ったものの、小型車が減少を続けていることから、全体では再び前年を下回った。

(建設)

県内建設関連企業における**民間工事新規受注額**は、県外業者との競合が続いているものの、マンション建設や中・小規模の設備投資案件がみられるなど、持ち直しつつある。

公共工事請負額は、県発注分の減少を主因に、10月は9か月連続で前年を下回った。

住宅着工戸数は、月々の振れが大きい中で、持家・分譲は堅調に推移しているものの、10月は貸家が減少したことが響き、全体ではこのところ増勢が一服している。